

## 社会

## 児童の社会的な見方・考え方を働かせ、思考力、判断力を高める社会科授業

-社会変化と産業の関わりに着目した産業学習の単元開発を通して-

こども家庭庁成育環境課主査（前松戸市立高木第二小学校教諭） こうむら しょう 河村 将

近年における産業の発展する速度に、学習内容が追いついていないのではないかと考え、小学校5学年における産業学習の単元開発の必要性を感じた。本研究では「水産業のさかんな地域」を題材とし、漁協直営の食堂、水産物のエコラベル、閉鎖循環式陸上養殖など、児童のもっている社会的な見方・考え方を揺さぶるような3つの事例を教材として組み込むことにより、児童の思考力、判断力の高まりを目指した。どの事例も千葉県内で行われている取組となっているので、授業で活用していただければ幸いである。また、産業学習における教材開発の視点についても言及している。社会変化に合わせ、学習素材をアップデートしていくための、先生方の一助となればうれしく思う。

## 理科

## 電流と磁界の概念理解を促進する学習指導の開発

-概念マップとアーギュメントの活用を通して-

柏市立柏中学校教諭（前田中中学校教諭） おおすぎ みゆき 大杉 美幸

中学校理科「電流と磁界」の単元は、多くの中学生にとって理解が困難である。生徒の理解を困難にする原因を明らかにし、新たな指導を開発するために長期研修を希望した。概念マップ、アーギュメント（科学的な論証）を用いた考察を重視した検証授業を実施した結果、理解が深まり、本単元の学習目標の「モーターが回転する仕組み」の理解が深まった。アーギュメントを用いた考察は、生徒の理解を助ける効果があり、概念マップは、概念を整理することに役立つ。アーギュメントを用いた考察は、ワークシートの雛形の準備、概念マップは画用紙と付箋のみで実施でき、評価も短時間でできるため、経験年数に関係なく実施できる。この指導法を多くの先生方に紹介し生徒の学力向上を目指す。

## 体育

## ベースボール型「ティーボール」における児童の状況判断力を伸ばす授業の在り方

船橋市立若松小学校教諭（前八千代市立西高津小学校教諭） なかま たかゆき 中間 貴之

ベースボール型は、ゲーム中の課題解決に必要な技能が高度であることや、状況判断が難しいことが課題といえる。そこで、小学校5学年「ティーボール」において、「どこまで走るか、どこでアウトにするか」の攻守の判断に関わる課題を焦点化したゲームを設定し、児童が適切な判断を下し易くなるようにした。また、戦術的課題の解決に向けた学習過程を設定し、着実に知識・技能の習得を図った。その結果、走塁時と守備時において状況判断力が向上した。また、状況判断の根拠となる知識を児童同士で共有する場を設定することによって、思考力、判断力、表現力の向上につながった。今後は走者の残塁を踏まえたルールのカンと、それに伴う攻守の状況判断力の向上を目指した授業の在り方を検証する。

## 体育

## 児童が思い切り運動に取り組み、 楽しさを味わうことができるマット運動

船橋市立飯山満小学校教諭（前三咲小学校教諭） しきじ敷地 ようすけ洋祐

運動の二極化が問題視され、制限された活動を強いられる中、児童が思い切り運動に取り組み、楽しさを味わうことができる教材設定の条件を明らかにするため、第6学年で、「小さじ一杯の工夫」を取り入れた活動の場とシンクロマットに着目したマット運動の授業を行った。その結果、運動技能や、意欲・関心の向上が認められた。さらに、仲間づくりの意識の向上も見られた。これらの成果から、活動の場を工夫し、児童が関わる学習を設定することで、思い切り運動に取り組み、運動及び仲間と関わることの楽しさを味わうことができるということがわかった。今後は、多くの方に実践をしていただき、児童の実態に合わせた活動の場の修正や、シンクロマットの行い方の検討をしていただきたい。

## 道徳

## 自己内対話を充実させる道徳科授業

-Criticalな視点で問いかけ、自己の判断を吟味するプロセスを通して-

浦安市立堀江中学校教諭（前明海中学校教諭） しのはら篠原 ちえ千恵

他人事としての理想解、模範解ではなく、自分で判断し、実行しようとする納得解を導き出し自己内対話を通してよりよい自己決定ができるようになることをねらい、中学2年生を対象に道徳科の授業を実施した。別の視点をもつもう一人の自己（self2）を設定し、今ある自己（self1）へのcriticalな問いかけ方（「別の立場で考えたらどうか」「実際に自分でそれができるか」等）を提示し、そのプロセスに沿って考える過程を取り入れた授業を実施した結果、自分自身に問いかけ、自己の判断を吟味することで、よりよい自己決定をすることにつながった。今後はself2からself1への問いを精査するとともに、道徳科と他教科との関連を図り、道徳科で学んだ自己内対話のプロセスを応用していく手立てを検討していきたい。

## 総合的な学習の時間

## 活力と魅力ある一宮町の創り手の育成

-ESDの視点に立ったプロジェクト型学習を通して-

一宮町立東浪見小学校教諭（前一宮小学校教諭） ひぐち樋口 はるき陽樹

持続可能な社会の創り手の育成のために、ESDが手立ての一つとして欠かせない。一方で、地球規模の課題を自分事として捉えさせることの難しさや、心がけ型の取組で完結してしまうという課題が残った。そこで、ESDの視点に立ったプロジェクト型学習に取り組み、実践活動や自治体への提言など、課題解決のための具体的な行動に繋がった。その結果、「地域や社会に働きかけ、協力して活動する力」を育て、ESDで重視する能力・態度の素地を身に付けることに有効であることが分かった。今後は、町を挙げたプロジェクトを継続するために、指導者や児童の実態に合わせたカリキュラムを再構築し、町全体としての取組として目的を共有しながら、町の創り手を育てていきたい。

## 生徒指導

## 子供一人一人の主体性を育む生徒指導体制の構築

- コーチングの視点を活用した関わりを通して -

山武市立山武中学校教諭 かわしま 川島 かなこ 佳奈子

予測できない未来に対応するために、子供の主体性を育むことが求められている。子供たちと関わる上で、教職員自身が常に学び続ける姿勢をもち、関わり方を変容・向上する必要がある。しかし、多忙化や免許更新制の発展的な解消により、経験豊富な教職員に相談する時間や外部で研修に参加する時間の確保が難しくなっている。そこで、教職員を対象に、コーチングの視点を活用した関わり方に関する研修と若手教員の生徒指導の実践力を養う研修を校内で実施した。その結果、教職員の生徒指導力が高まり、子供の主体性を育む生徒指導体制を整えることにつながった。今後は、県内各地で研究報告を行っていく。なお、校内研修パッケージを各校で状況に応じて活用していただけたら幸いである。

## 現代的教育課題

## 「振り返り・改善」から「課題の設定」につなげるためのAIテキストマイニングの活用

船橋市立若松小学校教諭（前葛飾小学校教諭） わたなべ 渡辺 たくや 拓也

「主体的・対話的で深い学び」という言葉は浸透しているものの、教師が学習問題を示し、児童は黒板に書かれたまとめを写すような受動的な授業スタイルは未だに多い。本研究では、「問題解決への見通しをもつ」場面や「学習の過程や成果を振り返り学んだことを活用する」場面でAIテキストマイニングを活用することで、「振り返り・改善」から「課題の設定」につなげる授業を開発した。児童一人一人が学習を進めている感覚をもち、主体的に学習に取り組む姿が見られた。本研究に触れた方々がAIテキストマイニング、延いては1人1台端末や電子黒板等のICTをそれぞれの教科や単元で活用していただくことで、千葉県内の「主体的・対話的で深い学び」の実現の促進につながれば幸いである。

## 知的障害

## 自分で考え、表出することのできる児童を育む道徳教育や教育課程の工夫

- 知的障害特別支援学級でのインクルーシブなカリキュラム・マネジメントを通して -

大網白里市立大網小学校教諭 ふじわら 藤原 きょうこ 杏子

これまで、知的障害特別支援学級での道徳科について試行錯誤しながら実践してきた。この研究では、自分で考え表出することのできる児童を育成するための、道徳科を中心としたカリキュラム・マネジメントの有効性を検証するために、総合単元的な道徳学習を計画し実行した。総合単元的に学習テーマを設定したことで、児童が道徳的課題を自分事として捉えることができるようになった。指導方法や授業計画、教科書の活用方法を通常の学級のものにとらわれることなく、児童の実態と生活に沿ったものを重視していくことが妥当であることが明らかになった。今後も研究成果の一つである道徳教育計画シートの改善に努め、多くの方に活用してもらえよう広めていきたい。

## 特別支援教育課題

## 特別支援学校高等部普通科職業コース及び 専門学科の多業種・多領域連携の在り方 - 社会生活サポート会議の実践を通して -

県立特別支援学校市川大野高等学園教諭 たけだ かずや 武田 和也

生徒の卒業に向けた自立支援をしていく中で、学校単独での対応では難しいケースがあり、外部の関係機関との連携をより一層図ることが重要と考え、本主題を設定した。特別支援学校高等部普通科職業コース及び専門学科と地域の関係機関が、互いの考え方や役割を共有できるネットワークとして社会生活サポートプロジェクト（連携モデル）を構築した。連携モデルの一つとして社会生活サポート会議を実践し、学校と関係機関の互いの課題や情報の共有、協働で行う具体的な取組について協議することが、学校と関係機関との連携の推進、相互理解を図る上で効果的であることが分かった。今後は、連携モデルを所属校にて継続して実践し、連携の強化推進に努めていく。

## 企業等派遣

## 企業での自己肯定感と働く意欲の向上に つながる人材育成のあり方について

県立八千代特別支援学校教諭 たかふじ みなほ 高藤 美奈穂

私が研究主題を設定した理由は、就職を目指す特別支援学校の生徒と関わる中で、自己肯定感が低いと感じる場面を数多く見てきたからである。自分の特性を受け入れるためには、高い自己肯定感が必要であると考えている。ポートプラザちばでは、「雇用する側」の独自のサポート体制や働きやすい職場の環境づくりについて学び、また、「雇用される側」である特別支援学校卒業生の職員からも働き方や仕事のやりがいについて教えてもらった。ホテルのホスピタリティを通じて得た、コミュニケーション力の大切さ、見る視点を変えることの重要性を学校現場に伝え、社会の担い手になる子供たちの可能性の拡大に繋げたいと思う。

## 企業等派遣

## 組織運営のリーダーとしての マネジメント力の向上について

松戸市立常盤平第一小学校教頭（前上本郷第二小学校教頭） かたやま ゆうじ 片山 裕二

地域と共に成長することを目指すプロスポーツ団体の千葉ロッテマリーンズは、行政機関や企業、様々な地域団体と連携しながら事業を展開する優れた経営手法を有している。

学校組織のリーダーとして、家庭・地域との連携、組織の機能向上、業務の効率化などについて学び、組織マネジメント力をさらに向上させることを目的に研修を深めた。地域振興を柱とした研修の中から、学校現場への還元について、①組織マネジメント、②会議運営、③目標管理、④業務の効率化の4つの視点に絞って研修報告書にまとめた。一年間の研修を通して、改めて「つながり」の大切さを学んだ。「つながり」の創出、最大化を図り、「地域と連携した学校」「チームとしての学校」の実現に生かしていきたい。